

【第36回経営者フォーラム】

10月30日(月)第36回経営者フォーラムをフラワーガーデンで開催し、約120名が参加しました。メインテーマは「変革への挑戦」とし、基調報告の後、3つの分科会に分かれ学びを深めました。以下、各報告要旨。

■基調報告

報告者 中野 愛一郎 氏 (株) イベント 21 代表取締役社長/奈良同友会副代表理事、共同求人委員長
Let's try! 「人を生かす経営」で未来を切り拓こう!

奈良県で父親から廃業寸前のイベント用品レンタル会社を引き継ぎました。当時拡大期にあったインターネットに着目し、その特性を活かして、大手顧客からも検索される仕組みを構築し、レンタル業を県内のみならず全国展開していき急拡大を続けています。



社長になった当初から採用活動を大切にし、自社の理念に賛同してくれた社員のみを採用しています。社員が増えた現在でも一対一の個人面談を一年間かけて行っています。それが急拡大を支えているとのこと。コロナ禍下においては、イベントそのものが感染拡大防止の為にことごとく中止になり、売り上げが激減しましたが、全社員に継続雇用を約束しました。その中でこれまで積み上げてきた自分達の強みを活かし、素早く感染対策対応のレンタル用品をレンタルしていき、苦境をバネにしてさらなる発展を続けています。

(基調報告記録: 黒崎 嘉之)

■第1分科会

報告者 石川 祐輔 氏 (株) カナマル 代表取締役 愛知同友会
「経営者の変革」～社員と共に夢を叶える会社づくりを目指して～

石川氏は、8年間のサラリーマン生活を経て、(株)カナマルに入社。しかし、会社は危機に瀕し、その中で急な事業継承に悩みます。ちょうどその頃、同友会と出会い、「必ずよい会社にする!」という信念で学び、志願して役員になるなど、同友会と経営を不離一体とする目標を掲げます。それにもかかわらず、社内では大きなピンチが続発し、社員の「もっと我々と向き合ってください!」との声に直面します。この一言で、石川氏は周りを変えようとするのではなく、「自分が変わるべきだ」という自己変革の大切

さに気づき、社員と共に夢を実現する会社を築くことを決意しました。その後の「社長変わったね」という幹部の言葉は今の石川氏の原動力になっています。

グループ討論では、「経営者が本当にやるべきことは何か」というテーマで、腹を割った議論が行われ、経営者のやるべきこととは「社員と一緒に会社を維持し発展させること」というまとめになりました。

(第1分科会記録：宮本 富士代)



■第2分科会

講師 福田 崇之 氏 金沢工業大学 産学連携局次長

「新時代の産学連携の在り方」～経済環境社会の調和を図る思考～



第2分科会では、金沢工業大学の産学連携次長の福田崇之氏が「新時代の産学連携の在り方」をテーマに講演しました。金沢工業大学は、約7,000人の学生と専門教員350人の在籍を強みにして幅広い連携実績があり、多くのプロジェクトを動かしているとのことでした。

ワークショップでは、「金沢工業大学との連携によってどのような地域づくりを実現したいですか？」というテーマでブレインストーミングを行いました。各グループからは教育に焦点を当てたアイデアが発表されました。「中学2年生の旅」をテーマにしたものや「木」（県産材）を活用した環境と健康に関する木育事業、また教育格差と地域格差を克服するために「仮想通貨」を活用して、大人と子供の立場を逆転させた「学びの遊園地」などの提案がありました。これらのアイデアから、企業と子供たちが生きる力を持ち、産学連携で最終的なゴール「皆がHappy」を実現するために協力していくことを確認しました。(第2分科会記録：正理 善寛)

■見学分科会

「採用戦略と働き方改革」さくらホームグループ／東洋警備保障（株）



さくらホームグループでは、DXについて標準化、自動化、可視化と3つの活用事例が報告されました。(写真) 従業員の誰が担当しても成果や時間にバラつきがないことを目的としたDXによる標準化はどこの会社でも是非取り入れたい仕組みです。自動化では社内のNG/GOODな行動を社内AI信長くんが自動で検知して叱ってくれたり、褒めてくれるようになっており、不思議と信長くんと言われるとストレスが小さくなるというのは納得感がありました。

また、社内のあらゆるデータをリアルタイムで可視化しており、社員のモチベーションや助け合う風土にも役立っています。これらDXの取組の目的は、「人がやるべき仕事に集中できる環境を整えること」であり、その結果、生産性向上→粗利UP→社員への還元に繋がっています。

東洋警備保障（株）では、橋本峰之会員が採用と働き方改革について報告しました。

コロナ禍において完全燃焼できなかった運動部の学生に焦点を当て、アスリート枠での採用を開始しました。その結果、3年で10名の採用に成功しています。新社屋に併設されたジムは、広告としても効果的で実際に採用の応募にも繋がっています。ジム内では、社員同士の交流が増え、アスリート社員からの指導により社員の健康意識も高まっています。直行直帰が多い中でも、社員が事務所に戻る回数を増やす効果もあり、これにより帰属意識の向上にも寄与しています。

各社企業訪問後のバス車内では、フィードバックの共有と直接の質疑応答も活発に行われ、有意義な時間となりました。（見学分科会記録：由上 良輔）

【支部例会報告】

■南加賀支部

11/17（金）村井 孝行 会員（株）ウェルヴィレッジ 代表取締役社長 会場：團十郎芸術劇場うらら
「外部環境に負けない企業づくり」



学校を卒業して働く中で恩師や人との出会いがあり、その中で創業を決意しました。立ち上げ時は楽しさを感じながら、起業後は経営面の難しさにぶつかり苦悩します。しかし周りの人との繋がりや出会いによりチャレンジし続けた結果、業績は黒字に転換します。家庭面での充実に加え、足元を固めつつ更にチャレンジしていくことを報告しました。

グループ討論では『今年チャレンジ（行動）したことはなんですか？』をテーマに社内での改革や売り上げ面でのチャレンジなどの話がありました。良かったことや課題、反省などが討論され、今後に向けて社業の方向性や新たなチャレンジへのきっかけを考える機会となりました。（寄稿：今村 彰英 広報委員）

【委員会活動報告】

■障害者問題委員会 勉強会 高田舗装（株）

10/23（月） 障害者雇用を通し、人を生かす経営を率先

「日本でいちばん大切にしたい会社」審査委員会特別賞を受賞し、障害者雇用を通して人を生かす経営を率先する高田会員に報告してもらいました。以下、参加者の感想。

（写真：座学にて高田会員がスライドを説明）



○升田泰規会員（（株）ラン 専務取締役）：高田会員はとにかく勉強熱心で、正直とても真似出来ないと思ってしまいましたが、実際に社員も巻き込んで会社を変えてしまったのが凄まじい力だと感じました。温厚な方ですが熱意は火山です。障害のある方の力になりたい！ではなく障害のある方が会社の力になる！（社員の強調性が強化され生産が上がる等）豊富な経験や知識から出てくる考えを聞かせてもらえました。

○下出美香会員（（株）KI・RA・RI 代表取締役）：勉強するだけではなく、即実践、継続し、社員の反発があっても、とにかく「いい会社にしよう」と続けてこられた。その熱い思いから、時間をかけてコツコツやってきた結果、今の会社があるということが伝わりました。障害のある方を雇用することで、

周りの社員が自然と手伝うという風土ができたことも素晴らしく、中同協の障害者問題全国交流会でも

同様の話を聞き、やはり目に見えない生産性があるということだと思いました。

■北陸三県女性部会合同例会

11/14 (火) 宗守 重泰 会員 (株) 宗重商店 代表取締役 会場：ハイアットセントリック金沢
「社員一人ひとりが主役になる会社へ」



7年目となる北陸三県女性部会合同例会を開催し、30名が参加しました。初めに富山・福井・石川の女性部会の活動をそれぞれの代表が報告しました。その後「女性部会の組織強化」をテーマに、同友会や女性部会に入会した経緯などを意見交換会し、「人を誘うには、誘う

自分自身が生き生きと輝いていることが大切」ということを確認し合いました。

宗守会員の報告では三代目として入社した当初、これまでのサラリーマン時代とのギャップに驚き、どのようにして会社のイメージを一転させ今日まで築き上げてきたかを話しました。勝てるチャンスとして描いた「サービス業への道」に活路を見出し、解体・リサイクル業界では少数派の女性がもっと活躍できる職場づくりにも取り組み、女性ならではの視点、アイデアで「いないをいるにする会社」へと、新たなビジネススタイルに挑戦し続けてきました。また、社員全員にオリジナルの手帳を配布し、毎月全社員へコメントを記入し、コミュニケーションを怠らず社内のモチベーション、一人ひとりの品格をあげプロ意識をもたせています。「感動イノベーション」をビジョンに掲げ、人づくり・まちづくり・環境づくりに取り組む実践報告でした。

多くの質問が活発に飛び交い、最後に「今後は新幹線延伸で、これまで以上に学びを共有できる機会が増えることに期待したい」と結びました。(寄稿：中村 融香 女性部会副部長)

■第16期経営指針成文化講座 第5講 オープン講座

会場：IT ビジネスプラザ武蔵

11/18 (土)「第15期修了生による実践報告会」

前年度(第15期)を受講した後、この一年間での実践活動を行うにあたり、当初の計画通り行えた修了生。また、新たな課題が見え、その課題についての悩みなど赤裸々な報告会となりました。



何よりも多くの方が言っていた受講中の自分との向き合い方について学ぶことができ、今何をすべきなのか課題が明確になっているからこそ日々の同友会活動での参加意識が変化するとの意見も出て、これから受講を検討される方にとっても有意義な時間となりました。(寄稿：平野 光祐 会員)

同友会3つの目的>>>よい会社をめざす よい経営者になろう よい経営環境をめざす

Ⓢ石川県中小企業家同友会

〒920-0059 金沢市示野町南 52 tel.076-255-2323 fax.076-268-5656